



「舞たうん」 20周年に寄せて

昭和62年10月15日に第1号が発刊されて以来、おかげさまで弊誌は20周年を迎えました。創刊当時、「財団法人愛媛県まちづくり総合センター」だった発行元も、その後、平成12年に財団の統合により名称が変わりましたが、現在に至るまで続けております。再度原点を確認すべく、創刊当時の方々からメッセージをいただきました。

「まちづくりは人づくり」 草創期のセンターに集う方々からよく聞いた言葉です。地域活動をリードしている「人」に焦点を当てて、それを情報発信しよう。初代宮本俊一所長の強い思いから、手作りのチラシ形態のものを少し発展させる形で、最初の「舞たうん」が生まれました。後に20年、中身を充実、発展させてこられた皆様に感謝申し上げます。

————— 山本 均（愛媛県土木部道路都市局建築住宅課）

かるちゃーしょっく！ 昭和61年7月、センター設立と同時に着任し、その後の2年間で経験した「かるちゃーしょっく」は魅力的で刺激的でした。最初のショックは、くわえ煙草でワープロをカチャカチャ打ちながら、「アイデンティティ」などという聞いたこともない英語を発する宮本（俊一）所長。でも一番は、「舞たうん」の創刊号に執筆した大分県下郷農協をルポした時のショック模様。

「舞たうん」は、かるちゃーしょっくの発信源ですね！

————— 井口 浩志（JA愛媛信連 金融推進部長）

「舞たうん」という名前が20年も続くとは、正直思わなかった。センターから機関誌を出そうという話があり、宇都宮（栄一）さんと一緒に名前を考えた。「私のまち」という意味に「風が舞うまち・人が舞うまち」という意味を付け加えた。だから「マイ」は漢字。「たうん」のひらがなは、優しさをイメージした記憶がある。「舞」は軽くないか？といわれ、力強い筆字がいいと考えた。作るのは簡単、思い入れがあるから。それを引き継いでくれた後輩の研究員たちに感謝したい。

「まいった？うん」。

————— 近藤 誠（西条市保健福祉部高齢介護課）

光陰矢の如し。継続は力なり。日月とは何か。時間とは何か。たかだか100年か。されど1年か。過ぎし時間と今、そして未来をつなぐ営みの中に「舞たうん」の生命があるのか。60才定年の春近し

————— 宮本 清幸（宇和島市介護老人保健施設ふれあい荘 事務長）

数多くの関係者の手によって編まれ、読者に励まされながらここまで続けてまいりました。これからも時代とともにスタイルを変えながら、その時代のまちづくり情報と人を追っていきたいと思います。